

ほ ん こ は ん つ と め ま す 報 恩 講 嚴 修

十月三十一日午後二時より

十一月一日午後三時まで

10月31日(土) 午後2時より
午後6時より

午後のおつとめ
親子の集い

11月1日(日) 午前9時30分より
午後1時30分より

午前のおつとめ
まどめのお勤め

★長寿者などを対象に自宅からゴボハンへ、ゴボハンから自宅への送迎サービス(無料)を実施いたします。前もつて電話をいただければ係のものが迎えにまいります。是非ご利用ください。



発行 真宗大谷派 常 入 寺
富山市東老田787番地
電話(076)436-0816
FAX(076)436-2766
携帯090-3764-3983
発行責任: 青井和成

お説教は 松井 勇さん (南砺市) です。
お斎は 11月1日あります。

ご近所の方をお誘いの上是非足をお運びください。
住職・役員 心よいお待ち申し上げております。



親子の集い



親子の集いを報恩講開催中、31日の午後6時より行います。
みんなでカレーを作って食べて、そして楽しく遊びたいとたいと計画しています。



ま
つ
て
す

御 正 忌 法 要

十一月二十二日(日) 午前の部 午前10時より

尼講進弔会 午後2時より

午後の部 引き続き 終了は午後4時を予定しています。

※ お昼に尼講の御膳付きがあります。
法話は午前の部、午後の部の後に当寺住職がいたします。

御文をいただく 其の三六

五帖目第三通 ④

それ在家の尼女房たらん身は、なにのようもな
 く一心一向に阿弥陀仏をふかくたのみまいらせ
 て、後生たすけたまえともうさんひとをばみな
 みな御たすけあるべしとおもいとりて、さらに
 うたがいのころゆめゆめあるべからず。これ
 すなわち弥陀如来の御ちかいの他力本願とはも
 うすなり。このうえにはなお後生のたすからん
 ことのうれしさありがたさをおもわば、ただ南
 無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と、となうべきもの
 なりあなかしこあなかしこ。

すでに 救いの手あり

お文様を読んでいますと
 疑ってはならないとか疑う
 必要が無いということが結
 構書かれていますような気が
 私します。そんなことを

思うとき浄土真宗の教えと
 いうのは今から生き方を変
 えて立派なものになりま
 しょう。疑いがなくなつた
 ら救ってくださいというも
 のではないと気づかせてい
 ただきます。
 このお文にある「さらに

椅子を貸し出します



常入寺には参詣用にお座敷用のいすが40脚以上あります。ご法事の時など足の悪い方々のためにこの椅子をお貸しもさせていただいています。(但し、お寺の行事がない時)ぜひご利用ください。また皿、コップ、大鍋などもお貸しできます。貸出料は無料です。

うたがいのころゆめゆめ
 あるべからず。」というの
 は疑いの心を持つてはいけ
 ませんという意味ではな
 く、疑いの心を持つ必要が
 無い、そのことに気づいて
 行きましょう。という意味
 が込められている言葉なの
 だと私ははいたたくわけ
 です。
 阿弥陀如来様の救いとい
 うのは今から始まるもので
 もなく、また未来に行われ
 るものでもないのです。今
 すでに始まっているものが
 如来様の救いです。過去か

< 御願い >

報恩講と御正忌法要を当寺で勤めさせていただきますので、

**10月30～11月1日、
11月23日は**

皆様のお宅への月参りは休止し、
 報恩講、御正忌法要のお勤めと併せて本堂にて
 お勤めさせていただきます。
 是非報恩講、御正忌法要にお参りください。
 ご理解いただきますよう御願いたします。

またどうしてもと言われる方は前もってお寺ま
 で電話ください。日時の変更など対応させてい
 いただきます。

という声が運ばれてきてい
 るのです。如来が私を救お
 うとなさっている証として
 「ナムアミダブツ」という
 声があるのです。

